

澱粉原料として多収の「コナフブキ」は主要品種として栽培されている。残念ながらどの品種も、シスト線虫に抵抗性を持たない。しかし、消費者や加工現場からの品質に関する要望は大きく、これらの需要に適

合した抵抗性品種が多数育成されている。新品種の作付け面積拡大により、自然な形でシスト線虫の拡大抑制が進むと期待する。

話題

天皇陛下の「サツマイモの花の思い出」に関する新聞記事

四季

江戸時代、日本の園芸は世界に類を見ないほど輝かしい発展を見た。千葉大学園芸学部が創立100周年を記念し、同学部に関連する松戸市戸定歴史館で展示会「江戸時代の園芸文化史」(11月15日まで)を開いている▼故・岩佐亮二名誉教授が集めた植物の浮世絵、学部が所蔵する園芸書、パネルを展示、隆盛ぶりを紹介する。身分の上下なく園芸に親しみ、優れた品種を生み出したが、なぜか明治以降衰えた▼ハナショウブ、ボタン、変化朝顔などが流行した。中には給だけが残る植物もあるようだ。アジサイ、ツバキ、菊などでは、この時代の品種が遺伝資源になって最近の育種を支えている。江戸時代の豊かさを園芸という切り口から身近に見せてくれる好展示である▼16日の初日は天皇皇后両陛下が行幸啓し、2教官の案内で熱心にご覧になった。皇太子時代の1943年、前身である千葉高等学校のイギリス庭園や農場をご覧になり、珍しいサツマイモの花を見た思い出があるのだという▼会場は松戸駅から徒歩10分。江戸川を見下ろす高台で公園になっている。同じ敷地内には最後の将軍・徳川慶喜ゆかりの地、戸定邸がある。期間中、学部内のフランス庭園なども公開。30日には園芸と造園に関する国際シンポジウムを予定している。

日本農業新聞 2009年10月18日

四季

天皇陛下の即位20周年を記念し、催しが各地で開かれている。そのせいなのか随分とお忙しい様子である。先月、千葉大学園芸学部へ行幸啓された話を小欄で紹介した。その後日談…▼陛下は「学習院時代に訪問した際に見たサツマイモの花のことが思い出されます」と、66年前の思い出を切り出されたという。日長の関係でわが国では花を見ることはほとんどない。それで育種はアサガオなどに接ぎ木して花を咲かせる▼同大の当時の資料には新品種「沖繩巨号」やユウガオ台の花を説明したと記録されていた。ところが陛下の記憶ではアサガオ。事前の資料でそれがとても気掛かりだったらしい▼宮内庁から「断言しないで」と言われており、困った大学関係者は「はっきり分かりません」と答えた。が、「学友と一緒に、皆に分かりやすいよう、説明する人がアサガオと言われたのでしょうか」と助け舟を出していただいたかたちになったという▼焼き芋人気でサツマイモの販売が伸びている。宮崎県都城市にある農水省の研究チームは、毎年17万本ものキダチアサガオに穂木を接いで花を咲かせ交配し、種を探っている。大変手間のかかる作業だが、新品種が生まれるのは2、3年に一つだという。農学の積み重ねが食料を支えている。

日本農業新聞 2009年11月18日